

「市民参画に係わる市民座談会」活動報告書

平成25年3月

1 市民参画に係わる市民座談会について

座談会について、当初は市民参画に係る企画・運営委員として立ち上げ、平成24年1月21日に「市民参画に係る講演会」を企画・開催しました。

名称については、市民が自ら企画・運営し、主体的にまちづくりを進めていくために、その手法を学び、実践し、広めていく中心的な役割を担う会であることから、「市民参画に係わる市民座談会」（以下「座談会」。）としました。

（1）総合振興計画の位置付け

市では、基本構想に将来像を「水と緑に満ちた やすらぎと生きがいのあるまち 朝霞」として掲げ、その実現のための基本方針を「パートナーシップによるまちづくり」とし、後期基本計画「Ⅶ章 構想推進のために」において「市民参画」として位置付け施策を実施しています。

（2）座談会の目的

市の「パートナーシップによるまちづくり」に基づいて、市民同士で自由闊達に意見交換や発言が出来る場を設けることにより、市民参画の機会を充実させ、その機運を高めることを目的として立ち上げられました。

（3）メンバー

公募市民 15人（平成25年3月14日までに参加した人数）

市職員 5人（政策企画室3人、地域づくり支援課2人）

※メンバーは、随時募集しています。

（4）活動

平成24年度は、毎月第2木曜日に市役所や市内の公共施設で「市民参画」をテーマに色々な話をしました。

詳細については次項以降に記載しています。

2 平成24年度座談会活動概要

(1) 座談会の開催状況

回	日時、場所	内容
第10回 【17人】	4月12日(木) 午後7時から午後9時まで コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・新メンバー紹介 ・平成24年度の活動について
第11回 【15人】	5月10日(木) 午後7時から午後9時まで コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・「私の市民参画」について
第12回 【16人】	6月14日(木) 午後7時から午後9時まで 朝霞市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画の仕組みづくりについて
第13回 【15人】	7月12日(木) 午後7時から午後9時まで 仲町市民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けについて
第14回 【15人】	8月9日(木) 午後7時から午後9時まで コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの取組内容について
第15回 【16人】	9月13日(木) 午後7時から午後9時まで 朝霞市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの話し合い
第16回 【15人】	10月11日(木) 午後7時から午後9時まで 朝霞市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの話し合い
第17回 【13人】	11月8日(木) 午後7時から午後9時まで コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの話し合い ・中間報告
第18回 【13人】	12月13日(木) 午後7時から午後8時30分まで 中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの話し合い
第19回 【15人】	1月10日(木) 午後7時から午後9時まで 朝霞市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの話し合い
第20回 【13人】	2月14日(木) 午後7時から午後9時まで コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて発表
第21回 【14人】	3月14日(木) 午後7時から午後9時まで 中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度活動実績について ・平成25年度の活動について

(2) 座談会のまとめ

グループ1 市民参画による 「朝霞の街づくり」 提案

アプローチ

当グループで各自のまちづくりへの思いと、市民参画による実現に向けてのアイデアを出し合い、1年間の検討を踏まえて提案としてまとめた。

まとめ方として、①朝霞のまちの現状解析、②望ましいまちの姿、③実現したい地域とまちづくりの内容の一例、④まちづくりにかかわる市民参画のあり方、のテーマで箇条書きの形でまとめた。なお参考資料として、朝霞の実情データ、及びまちづくり提案の一例をビジュアルな形でまとめたものを添付する。

(1) 朝霞のまちの現状とこれからの姿

①人口・生活動向

平均年齢が比較的若い街	埼玉で4番目に若い 42歳
高齢化社会へ加速 ⇒ 生産人口の減少	65歳以上 16%→30%
核家族化進行 ⇒ 孤独な世帯の増加	一世帯人数:2.2人、高齢者1人暮らし
地域格差・世代格差	周辺地区の過疎化と利便地区の人口増加
退職帰郷者の増加・埼玉都民化 ⇒ 街を愛するか	
町内会・自治会加入率の減少	半分以下 減少が続く
共助の街へ	子育て、高齢者、弱者支援、健康推進など

②街の姿の動向

農地・緑地の住宅転用の加速	緑被率減少、田畑緑地が住宅地に転換
田園混在型から都市化加速	マンション、小規模住宅団地の増加
商業、工業の停滞・衰退	商店街・小規模商店の減少、農業の衰退
交通利便性向上 ⇒ 行動範囲の広域化、薄れる郷土愛、近隣都市との交流増加	

(2) 望ましい街の姿（みんなの意見）

住み続けたい街
緑と自然の豊かな街
にぎわい・和みのある楽しい街
誇れる街・近隣よりも良い街
世代と地域を越えた交流のある街 ・ 自立と交流でつくる元気な街
高齢者の元気な街

(3) 実現したいまちづくりの例

★3つの地区ゾーンを例として検討

①朝霞駅から市役所・青葉台地域の「商業と文化・公園のゾーン」（東口も含む）

☆朝霞中心部としてのシンボルロード

☆人が安心して集まれる街

駅前商店街活性化 ・ 大型車禁止、電線の地下化、看板の美化、歩行者ゾーン
・ 市場、バザー、イベント、空き店舗活用

・グルメ、リピーター、話題性

基地跡地の活用

☆朝霞の森活用 ⇒ 市民の集まる広場
・ステージ、音楽広場、畑・森の自然
・自然と調和したやすらぎの場

交通流線の整理

商店街のバス禁止・路線変更

高層住宅ゾーン

商・住・公・公園近接、計画性のある街

商業ゾーン

東口エリア

②北朝霞・朝霞台駅から黒目川流域の「商業と川の自然ゾーン」

駅周辺の集中商業化整備 駅前広場と商業、飲食ゾーン 乗換客取込み

黒目川整備事業 黒目川丸ごと再生事業の推進

健康・体力・憩いのゾーン イベント・祭り、ウォーキング・ジョギング、散歩
花見、川遊び、周辺の多くの公共施設活用推進

東洋大学との協働 学ぶ市民と学生との交流

歴史・文化ゾーン 高橋家、博物館

③内間木・田島地区の「田園と川の自然のゾーン」

自然の残る親水ゾーン 環境保全・防災 開発の計画性と規制

農村・農業参加・交流ゾーン

新規開発ゾーン 工業・研究施設集約化・芸術の杜
近代農場・野菜工場、ハイテク産業

★まちづくりのキーワード

自然 健康（高齢者の社会貢献） 子育て・教育 産業 財政
安心・安全（自助・共助による防災・防犯）

（４）まちづくりにかかわる市民参画のありかた

①早い時期からのまちづくり計画過程への参加（Plan）

- ・まちづくりの計画の段階からの参画の仕組み
- ・既存の委員会・審議会などの機能や役割の見直し ⇒ 市民参加の拡大
- ・まちづくりの提案制度化 ⇒ 検討する仕組み・制度

■例えば「市民が主役のコミッショナー制度」

■例えば「事案ごとのプロジェクト/タスクフォース」による一貫した計画と実施体制

②執行過程での参加（Do）

- ・実施に当たっての、団体、地区の市民、年代別の世代（こども、若者、高齢者、子育て世代等）の協力、参加
- ・参画しやすい、場所・仕組みの構築
- ・イベントを通しての参画
- ・協働の推進

③継続した参画（See）

- ・見直しの仕組みと評価のシステム

- ・継続できる環境作り
- ・ボランティアの活用と参加利得制

④幅広い市民の参加

- ☆地域住民の参加 ⇒ 自治会加入率向上と活性化、ネットワーク化
- ☆活動団体の活用 ⇒ 活動団体、サークル、スポーツ・趣味の会などネットワーク化の一層の推進
- ☆企業・公益機関・行政・学校などとの連携 ⇒ 協働
- ☆市民が意見を言いやすい仕組み
 - ⇒ 提案制度、コンテスト、こんな街にしたい意見募集、気楽に市民の集まれる場所（市民サロン・市民広場）
- ☆情報のありかた ⇒ 情報格差の解消

⑤その他

- ☆財政と運営の自立、および財政負担を軽減
- ☆市民参画する市民の育成
 - かつてのパートナーシップカレッジのような、学んで育成する制度・仕組み
 - リーダー養成、シニア活用、地区の人材
 - 市民の知恵、技術、企業経験など市民の持つ宝の活用

グループ2 市民参画を進めていくために

- ・市民参画を進めていくために、ファシリテーターを養成したらどうか。
- ・市民の中にファシリテーターが必要である。
- ・ただ、養成しただけではダメで、実践していく場が必要である。
- ・第4次総合振興計画では、ファシリテーターを市が委託したコンサルタントが行っていたが、市民ができると良いと考える。
- ・総合振興計画に位置付けている「市民参画」について、どの程度進んだのかを検証する必要がある。
- ・市で行政評価を実施しており、市のHPにその評価結果が掲載されているが、内容がよく分からないため、よく噛み砕いて、分かりやすく説明する役割が市にはあると思う。

グループ3(1) 「広報あさか」を含む広報活動について提言

朝霞市の世帯構成から、単身者も多く町内会への加盟率も近隣市町村で最低の状況を呈している。それにもかかわらず、広報あさかの配布方法が以前とあまり変わることはなく、町内会に頼った配布方法がとられて久しい。

インターネットが普及することで、ホームページなどで間に合うという声も確かにあるが、メイあさかセンターの活動でかかわる方々にはまだまだ活字に頼る方が圧倒的に多い。しかも、隅々まで読む。それで自分の立ち位置の確認が出来ている、という前向きな方もいる。

市が広報するという事、市民が市政についてより詳しく知るということは、義務と権利の大切な基本である。市政情報難民をなくすために。

今後、これまでの月2回発行から1回発行になるということに危惧を持ちながら、下記の提言をする。

記

1. 本当にどのように読まれているのか、どれだけ必要とされているのかのリサーチを試みることを提言します。
2. インターネットの利用状況
インターネットのみで間に合うか。併用しているかの調査も必要です。
3. 月1回にする真の理由と効果について
 - ①財政的に・・・ほぼ400万円の削減・・・もっと違うことでの節約は不可能か。
 - ②1回になってのページ数増加や情報の新鮮度・タイミングなどの課題をどのようにクリアするかを検証を。
 - ③高齢者などは、ページ数が増えることで、速度的に間に合わなくなりタイムリーな情報についていけなくなることを危惧していますので、文字ポイントを小さくすることは避けてください。
 - ④配布に町内会が大変ということであれば、NPO法人や運送会社への委託契約で全世帯配布ということを提言します。
4. 1～3の課題を確認した上で、今後全戸配布し、かつ、内容の充実を図るために下記の事を提言します。
 - ①各号1ページを市民編集員を公募して、取材などを担当しレイアウトなどは市職員と一緒に
 - ②各号にアットランダムに挿入したニュースレターにアンケートを挟み込み返信いただく方法で、各号しっかり考察してより読まれる広報あさかを創りだす手立てに。
5. 町内会に若い世代が関心をもつためにも、朝霞市のホームページをタイムリーにアクセスするためにも、全国的に試みられている電子町内会などコミュニティー醸成に役立てていることも試行する価値があるのではないのでしょうか。

グループ3(2) 公聴制度の充実に向けて

公聴制度の中でパブリック・コメントは重要です。この制度を充実することによって市の重要施策に対し、より多くの市民の意見、要望等を施策に反映させることが出来るからです。

過去の事例から学ぶ

2010年1月に実施された「朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本整備計画(素案)」のパブリック・コメントにおいて、聞き置くだけのアリバイづくりのパブコメから本当に市民の意見を市政に取り入れようとする試みが実施され、パブコメに参加した58名の市民からは高い評価を受けました。

朝霞市のパブコメ制度においても2010年1月に実施された先進的事例を水平展開することにより、さらなる充実した制度に改善できます。

● 2010年1月に実施されたこと

- ・ 提出意見382件に全てに個別に回答を行い、提出者全員に回答書を送付した。
- ・ パブコメ参加者を対象とした説明会を後日開催し、意見交換を行い、出された意見を整備計画書に反映させた。

【水平展開し改善する事項】

- ① 提出者全員に個別事項ごとの回答を郵送で行うこと。
- ② パブコメ参加者を対象とした説明会を開催し、意見交換を行い、素案に反映させること
- ③ 重要施策や長文な案件などは事前に市民説明会や勉強会等を開催し、市民に内容を周知すること

グループ3 (3) 彩夏ちゃんにもっと頑張ってもらいませんか

朝霞市が全国に誇る『彩夏祭』。

彩夏祭のホームページを見ると「地域への愛着や連帯感、人と人との繋がりが薄れていくことに危機感を抱いた市民の手によって始められました」とあります。

その祭りのイメージキャラクターである『彩夏ちゃん』にもっと活躍の場を提供し、子どもから大人まで地域への愛着や連帯感を喚起するのに一役買ってもらうてはいかがでしょうか。

【期待される効果】

- 地元のキャラとして定着することで、地元イメージの具象化につながり、朝霞への帰属意識を高められる
- 帰属意識の高まりによって朝霞への愛着も強まる

【提案】

- 現時点ではお祭りまでの2～3ヶ月が実質の活動期間。これを通年にし、市内の様々なイベントに登場してもらうことで、朝霞市のイメージキャラクターとして認知度を高める
- 彩夏ちゃんに関連するイベントを行う。例えば・・・
 - ・ 美容院対抗盛髪コンテスト（彩夏ちゃんはヘアスタイルにこだわりがあるので、彩夏祭の中のひとつのイベントなどで）
 - ・ 彩夏ちゃん物語コンテスト（彩夏ちゃんが主人公の絵本のストーリーを募集、優秀者の作品を市内の高校や中学の美術部で作品化し、書籍化やもしくは朝霞市ホームページに公開する）
 - ・ 『彩夏ちゃん踊り』の制作（誰でも簡単に踊れるようなよさこいを作り、幼稚園や保育園などでも踊ることで、幼いころからよさこいと祭りとにより親しみを持ってもらう）
- twitter アカウントを作成（日頃から発信、市内の情報も発信できる）

(3) 座談会の今後の活動（平成25年度以降）について

- ・グループごとに出された内容を基に、どのようにしたら市民参画が図られるのかを具体的に検討していく。
- ・上記について、必要に応じて担当課と意見（情報）交換をしていく。
- ・第5次朝霞市総合振興計画基本構想を策定にあたり、市民等の人集めの方法を検討するとともに実際に人集めを行う。
- ・自治基本条例を策定する前段階の検討にあたり、市民等の人集めの方法を検討するとともに実際に人集めを行う。

3 座談会メンバーからひとこと

コメント
<p>延21回に亘る座談会は一回当たり2時間を超す座談会だから延42時間を超す座談会だった。開催当初は「どのように展開するのだろうか」また「はたしてまとまるのだろうか」と些か疑心暗鬼になった時期もあった。しかし回を重ねて各々の思いを交換していくうちに、次第に各々の思いが一つに収斂して来るのを実感した。時間がかかっても徹底して意見交換することが全員のコンセンサス作りになったと実感した。そうして一つにまとまった第1グループは、同じテーマで活動している、「NPO法人住みたい朝霞まちづくりネットワーク」に合流して立案した朝霞のまちづくり構想の実現に向けて活動を展開することに決めた。第2グループ、第3グループの皆さんはどうだろうか。目指す姿を実現するためには、複数のグループがまとまって意見統一しながら進めることが効果的に構想を実現することができると思うが・・・。</p> <p style="text-align: right;">（岩垣）</p>
<p>市民という時は一握りの特定のファクターでくられる集団を対象とするのではなく、住民全部が対象であるという基本的な考えを維持してお話を進めることが大切です。</p> <p style="text-align: right;">（尾池）</p>
<p>今年は1回休んだだけで11回出席できた。 立場を超えた方々と市民参加のあり方などについて忌憚のない話し合いが重ねられたことはとても有意義であった。 来年度はどう具体化していくかが問われそうである。 楽しんで参加したいと思っています。</p> <p style="text-align: right;">（大野）</p>
<p>私は座談会に途中入会です～ 朝霞市に越してきた当時、何も知らない自分でした。 息子たちと同居する事で、朝霞市を知ろうと思ったのです～ 丁度『PSC3』の募集があり直ぐ参加、いろいろ勉強できました。 今後子ども、孫も住み続けるであろう朝霞の街が・・・ 『住みよい街朝霞』に！ シニア、女性の立場から発信していきたいと願い。 提言した事が、実現する街になって欲しいです～</p> <p style="text-align: right;">（小嶋）</p>

ひとつ 「まず一步をふみ出そう」

市民参画の実施を少しでも前に進めるために、報告書の中のいくつかのテーマや提案について、やってみることが必要である。

市民と行政、関係機関とお互いの思いや課題、情報を共有する事によって、具体的に前に進むことが出来よう。またその中で市民参画の進め方や問題点、課題が見えてこよう。但し市民参画によって、今でも時間がかかっている計画や事業の実施が、更に大幅に遅れるようなことを避ける工夫も合わせて考えなくてはならない。 (坂本)

座談会では、若輩も若輩で毎回勉強をさせていただきました。

個人的には大きなことも協力できればとは思いますが、市民の皆さんも、役所の皆さんも、そして自分自身もわくわく楽しくなるようなちょっとしたことを、提案できていければと考えております。

羨ましがられる街になったら嬉しくないですか？

(竹内)

4 座談会メンバー (平成25年3月14日現在)

グループ①まちづくり

岩垣 (三原)、小嶋 (根岸台)、坂本 (岡)、藤井 (朝志ヶ丘)、宮本 (栄町)、山本 (宮戸)

グループ②市民参画全般

佐野 (岡)、戸田 (三原)、米野 (岡)

グループ③広報・広聴

尾池 (溝沼)、大野 (膝折)、白石 (宮戸)、竹内 (宮戸)、長谷川 (泉水)、前田 (本町)

(50音順)